

パブリックコメント意見書 < 令和4年2月25日(金)～3月15日(火) >

案 件	倉敷市山陽ハイツ跡地整備基本構想(案)について		
住 所 (又は所在地)	倉敷市玉島阿賀崎1212		
氏 名 (団体の場合は、名称及び代表者名)	倉敷管弦楽団 団長 菊池 東		
連絡先 (電話、メールアドレス等)	086-522-5145	info@kurakan.org	
区 分 (該当番号に○をしてください)	1. 市内に住所を有する方 2. 市内に通勤または通学する方 3. 市内に事務所または事業所を有する方 <input checked="" type="radio"/> 4. この案件に関し利害関係を有する方		
意 見 ・ 提 言 など			
<p>倉敷管弦楽団は、令和4年で創立48年となり、現在82名の楽団員でオーケストラ活動を行っております。毎年、定期演奏会と倉敷音楽祭公演を活動の柱とし、倉敷音楽祭では、これまで市民参加型のオペラやミュージカル、クラシックをはじめ映画音楽等の親しみやすい曲を演奏しています。</p> <p>練習は、毎週月曜日の夜を定例とし、演奏会前には臨時練習を加え、倉敷市文化交流会館の大練習室を利用しています。かつて、楽器庫を備えた専用の練習場所が無く苦勞していた頃、文化振興のためにと、旧倉敷消防署を改築して設置していただいたこと、とても助かり、感謝しております。しかし、消防車庫からの改築であったため、使用上の制約を受けることや手狭に感じることもあります。特に、打楽器が多い曲になると、通常の演奏配置ではできず、過密状態にもなっているのが現状です。</p> <p>そうしたことから、この基本構想(案)の基本方針3について、意見・提言をさせていただきます。</p> <p>1 複合化について 複合化には練習室からの音漏れ等への防音防振対策が必要となりますが、大音量と振動がする楽器もあるため、堅牢な建物或いは防音等対策にコストをかけたとしても、その効果は限定的であり、他の活動を妨げることになります。そのため、各練習室と会議室は、それぞれ棟を分け、一定の距離を空けて配置すべきと考えます。また、トイレは共有できる配置とし、シャワールームは現在の使用状況からも不要とすれば、集約化するだけでもコストメリットはあると考えます。よって、複合化ありきとせず、集約化も選択肢に含めて検討すべきと考えます。</p> <p>2 総延床面積の縮減調整について 大練習室が縮減されると、大人数の団体の活動は制限されます。利用頻度が高く、民間等にも代替施設がない大練習室については、文化振興の観点も踏まえ、縮減とならないよう全体の中で調整すべきと考えます。</p> <p>3 施設設計の体制づくりについて 音楽練習室で質の高い音楽を創造するには音響がとても重要となります。そこで、設計にあたっては、利用を希望する文化団体をはじめ、音響専門家の意見も取り入れ、適切な空間設計が検討される体制づくりが必須であると考えます。</p>			
提 出 先			
部署名	企画財政局 企画財政部 企画経営室		
電話	086-426-3055	FAX	086-426-5131
住所	〒710-8565 倉敷市西中新田640番地		
E-Mail	plnpol@city.kurashiki.okayama.jp		